

2025年12月期 第2四半期 決算説明会

2025年7月31日
日本電気硝子株式会社

2025年12月期 第2四半期 業績概要

2Q（累計）連結業績の概要

					(億円)	
	1Q	25/12期 2Q	2Q累計	24/12期 2Q累計	増減 (%)	
売上高	748	789	1,537	1,547	△0.6%	営業利益の増減要因 主な項目 (+) 生産性の改善 (+) ディ스플레이事業等の販売価格引き上げ (+) 電子デバイス事業の売上高増加 (+) 物流費の低下 (-) ディ스플레이事業の販売数量減少
営業利益 (利益率)	78 (10.6%)	87 (11.1%)	166 (10.8%)	28 (1.9%)	479.6%	
営業外損益	△17	△6	△24	74	-	
経常利益	61	81	142	102	38.2%	営業外損益の増減要因 <ul style="list-style-type: none"> 為替差損の計上（前年同期は為替差益を計上）…主に海外子会社の借入に係る債権債務の評価替えによるもの 25/12期2Q累計 為替差損△41億円 24/12期2Q累計 為替差益 60億円
特別損益	13	4	17	309	△94.4%	
親会社株主に帰属する 中間（四半期）純利益	50	50	100	302	△66.6%	特別損益の増減要因 <ul style="list-style-type: none"> 固定資産売却益の減少（△204億円）…前年同期は藤沢事業場跡地やディスプレイ韓国拠点の資産等多額の売却益を計上 事業構造改善費用の計上（△29億円）…複合材事業における英国子会社の事業活動停止に伴うもの
1株当たり 中間（四半期）純利益（円）	62.47	65.04	127.51	347.08	-	
1株当たり配当金（円）	-	-	70	65	-	

ディスプレイ

- 価格改定が進む
- 1Q、2Qとも堅調な需要が継続するも在庫が払底し販売数量は減少

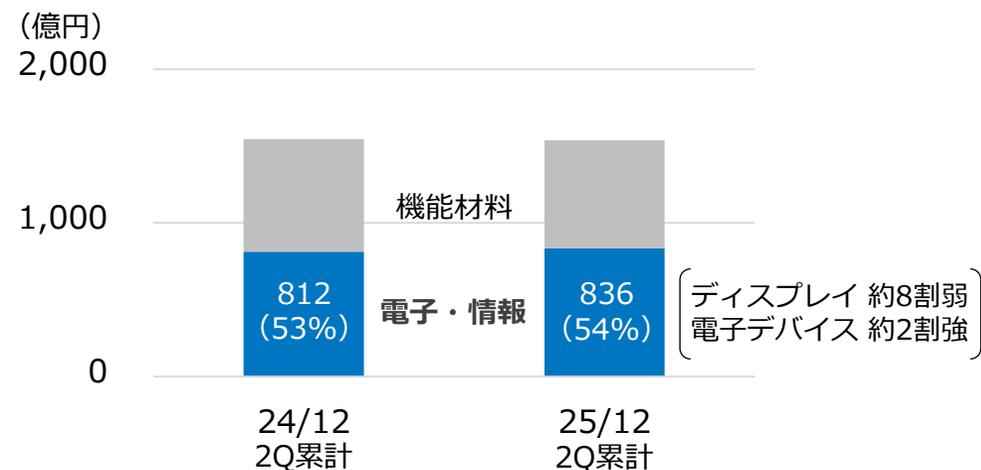
→ 売上高：前年同期比減少

電子デバイス

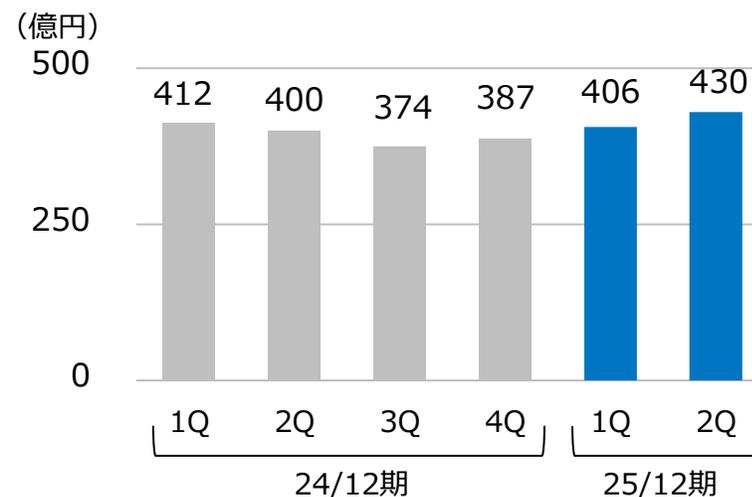
- 半導体向け及びデータセンター向け製品を中心に需要が好調
- その他の製品は緩やかに回復

→ 売上高：前年同期比増加

■ 売上高の推移



■ 四半期売上高の推移



複合材

- 厳しい競争環境が続く需要が低迷
- 6月に英国子会社の事業活動停止を決定

→ 売上高：前年同期比減少

医療・耐熱・建築

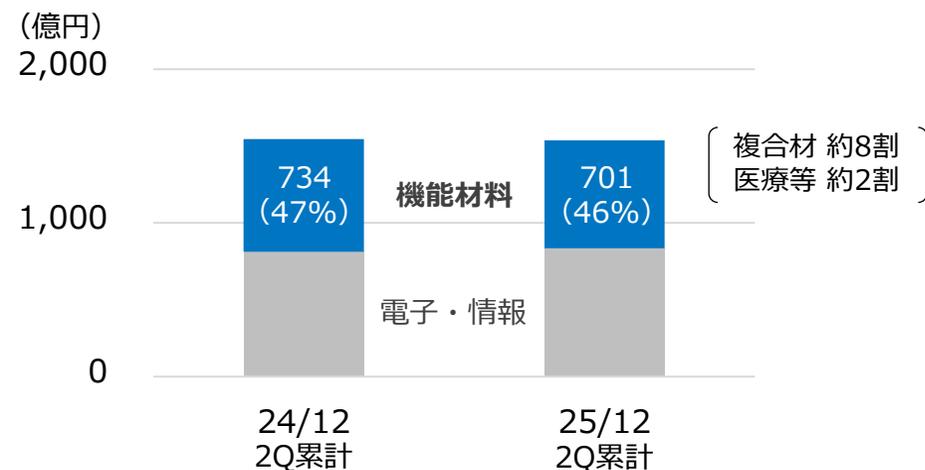
- 医療・建築：販売数量の回復や販売価格の改定

→ 売上高：前年同期比増加

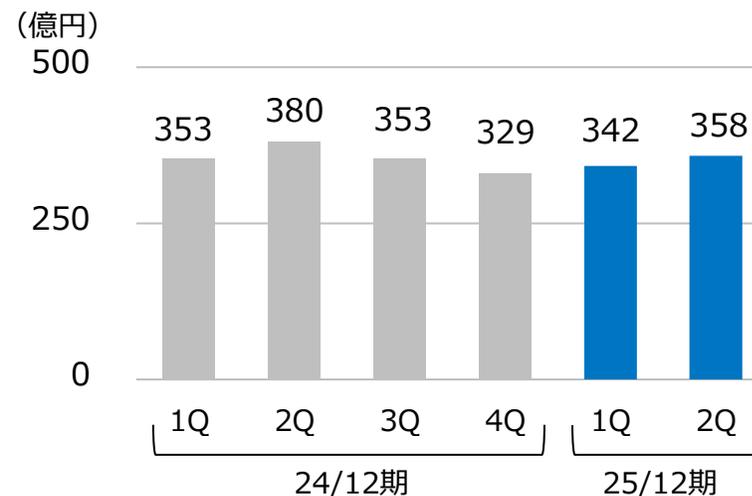
- 耐熱：軟調な需要が継続

→ 売上高：前年同期比減少

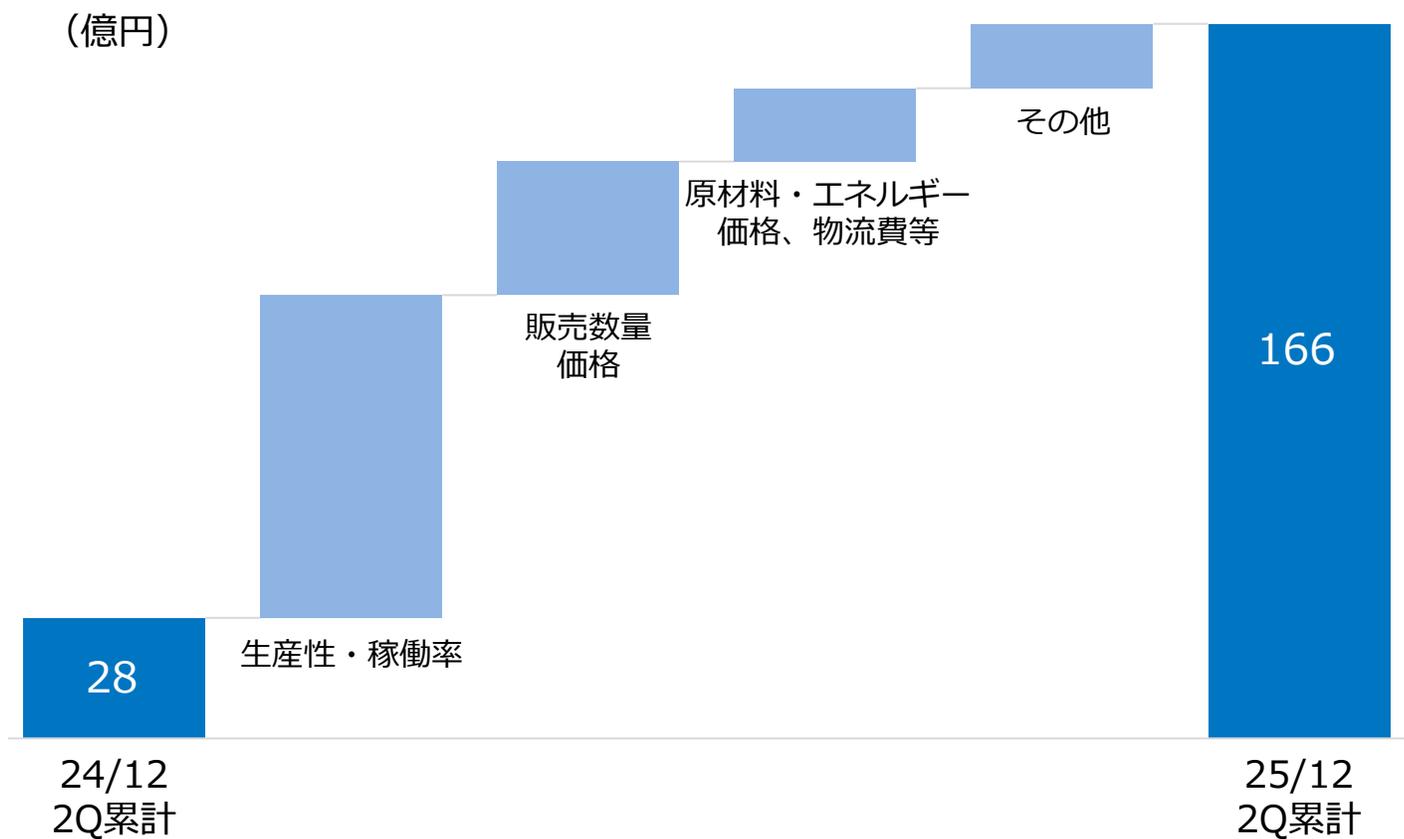
■ 売上高の推移



■ 四半期売上高の推移



営業利益の増減分析（24/12 2Q累計比較）



主な要因

増 加

- ・生産性の改善
- ・ディスプレイ事業等の販売価格引き上げ
- ・電子デバイス事業の売上高増加
- ・物流費の低下

減 少

- ・ディスプレイ事業の販売数量減少

2025年12月期業績予想及び配当予想

連結業績予想及び配当予想の概要

25年12月期

(億円)

	上期実績	通期予想	(参考) 24/12期	24/12期比 増減割合
売上高	1,537	3,100	2,992	3.6%
営業利益	166	270	61	341.1%
営業利益率	10.8%	8.7%	2.0%	-
経常利益	142	240	124	93.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	100	170	120	40.6%
配当予想 (円/株)	中間70	年間145	年間130	-

見通し

- 米国の関税措置が当社グループの業績に直接与える影響は僅少
- ただし、同措置が世界景気の下振れを引き起こし、製品の需要減少が当社グループの製品需要を押し下げる可能性あり

※通期業績予想には、米国の関税措置による間接的な影響は織り込んでいない

想定為替レート

1 ドル = 145円

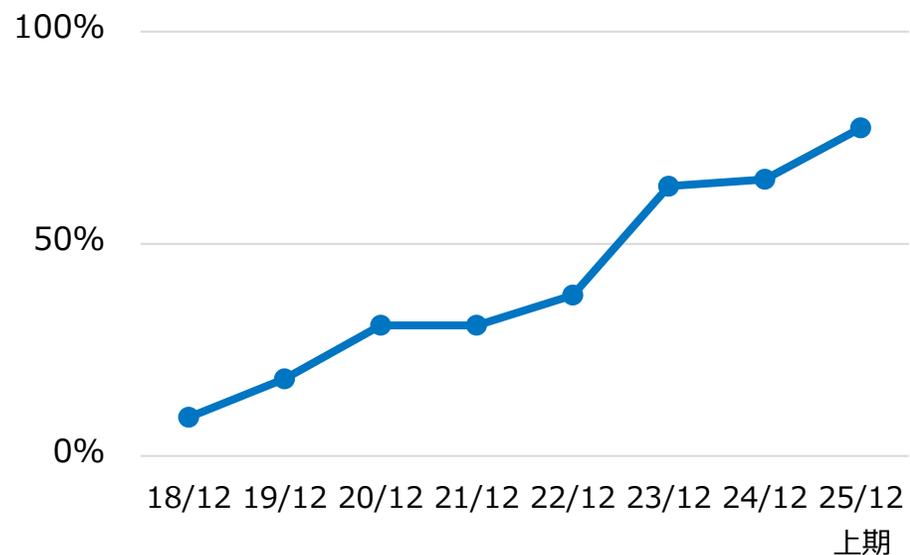
1 ユーロ = 160円

下期

- 得意先で在庫調整の動きがみられるものの、底堅い需要を見込む
- 全電気溶融炉への切り替えや生産性改善のための定期修繕を行い、供給体制の強化を進める

■ EGP2028取り組みの進捗

・ 全電気溶融炉への転換が進展



※ディスプレイ事業のみ

・ 超薄板ガラス Dinorex UTG[®]の用途拡大

Motorola (razr 50/razr 60シリーズ) に続き、Xiaomi MIX Flip 2で採用

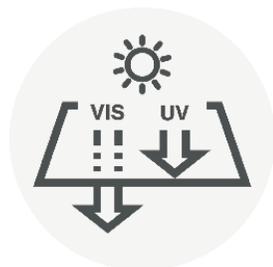


Xiaomi MIX Flip 2

ディスプレイで培ったオーバーフロー技術を活かした新製品開発を積極的に展開

人工衛星ソーラーパネル用超薄板カバーガラス

人工衛星の長寿命化・軽量化に貢献、採用進む



紫外線遮蔽特性



軽量



ペロブスカイト太陽電池向け超薄板ガラス

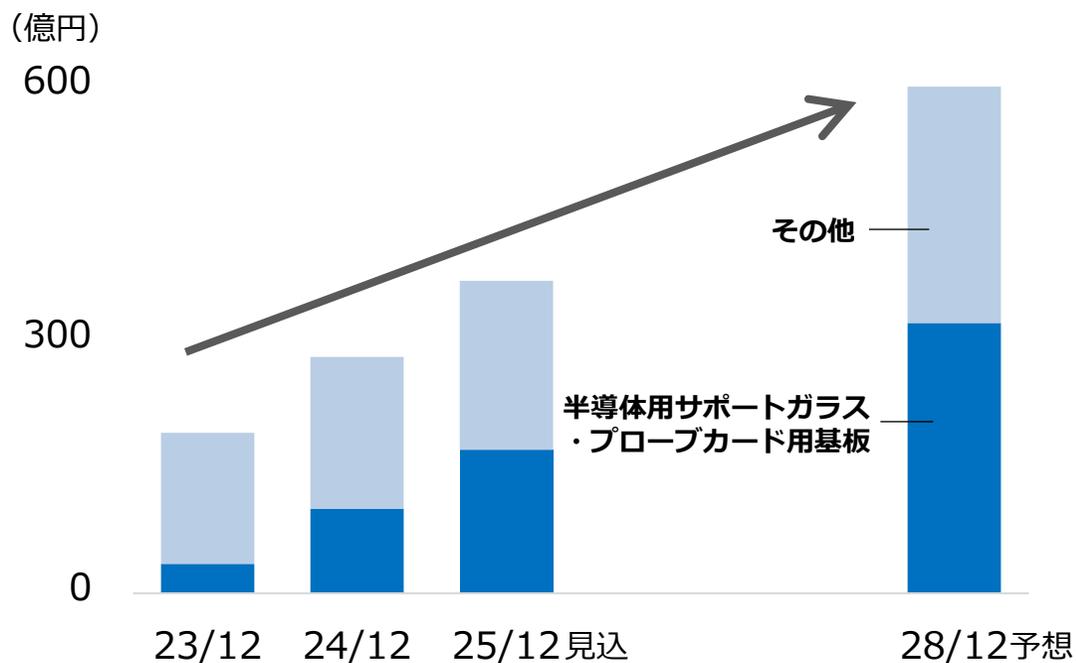
ガラスの特性を活かした開発を進行



下期

- 半導体用サポートガラス、光エレクトロニクス関連を中心に販売の拡大継続
- 家電、自動車関連は緩やかな回復が継続
- 無機コア基板のラインナップを拡充 → ビジネスの本格展開に向け取り組みを強化

■ 電子デバイス事業の売上高見込み



■ 無機コア基板事業

GCコア™ (ガラスとセラミックスの複合材)

基板特性 (電気特性、膨張係数等) のアレンジ容易

ガラスコア基板 (CO₂レーザー加工)

工程短縮、高速加工

ガラスコア基板 (レーザー改質・エッチング)

小孔径・狭ピッチTGVへの対応

(強み)

ガラスの材料設計技術

×

多様な加工技術

⇒ 2028年頃の事業化を目指す

下期

- 中国企業との厳しい競争環境が継続。需要の回復にはなお時間を要する見通し
- 収益改善に向けた取り組みを継続

■ 英国拠点の戦略的見直しについて

『複合材事業の構造改革に伴う英国子会社の事業活動停止に関するお知らせ』（6/18）

2025年6月末に生産を停止、債権債務の整理を進め、清算に向けた準備を行う

日本、マレーシア、米国の3拠点体制で収益改善に向けた取り組みを継続

【収益改善に向けた取り組み】

- 生産効率改善
 - ①電気溶融比率の向上によるエネルギーコスト削減・生産効率改善
 - ②紡糸設備改良による設備あたりの生産量向上⇒ 製造原価の削減へ
- 地域別の事業戦略
 - 日本…高付加価値製品の拡大
 - * フラットガラスファイバの拡販
 - * 電子材料用高機能ガラスファイバの開発
 - マレーシア…生産規模を活かし自動車部品向けの生産強化
 - 米国…住宅関連市場向けの生産強化

下期

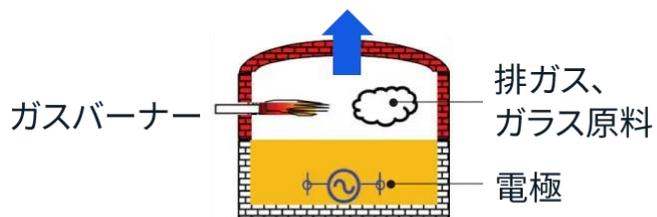
総じて上期並みの需要を見込む

- 医療：欧米・インド市場等での拡販
全電気溶融技術の導入に向けた準備（マレーシア。2026年1Q稼働予定）
- 耐熱：ストーブ窓向けは緩やかな回復。調理器トッププレート向けは海外拡販強化
- 建築：大型物件の受注に向けた取り組み強化

全電気溶融炉の効果

ガス燃焼炉

燃焼起因の排ガス多、排熱大



燃焼によるCO₂排出 **多**

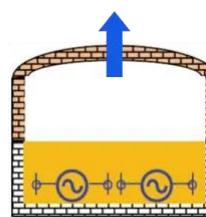
排ガスによるエネルギーロス **大**

炉壁温度 **高** 放熱 **大**

ガス燃焼炉から
全電気溶融炉への
転換

全電気溶融炉

原料起因の排ガスのみ、排熱小



燃焼によるCO₂排出 **なし**

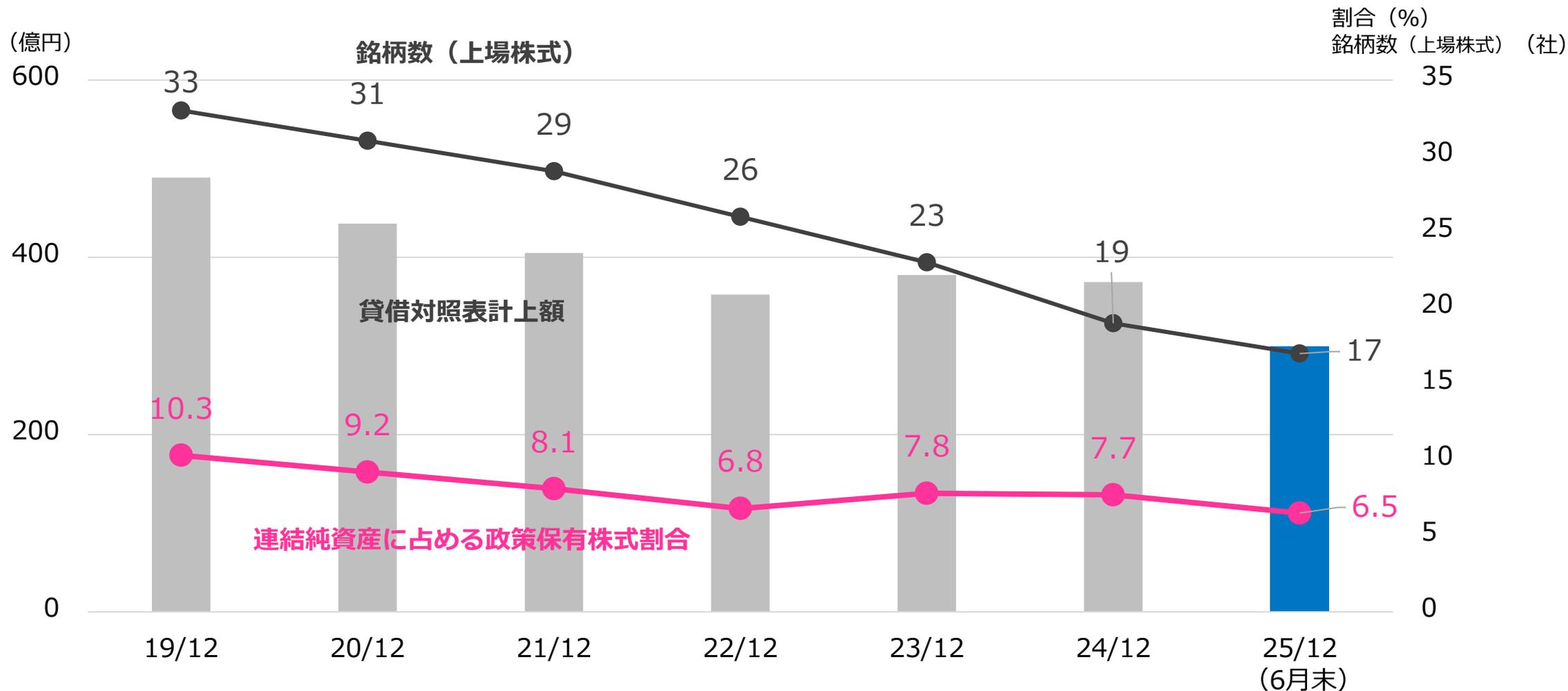
排ガスによるエネルギーロス **小**

炉壁温度 **低** 放熱 **小**



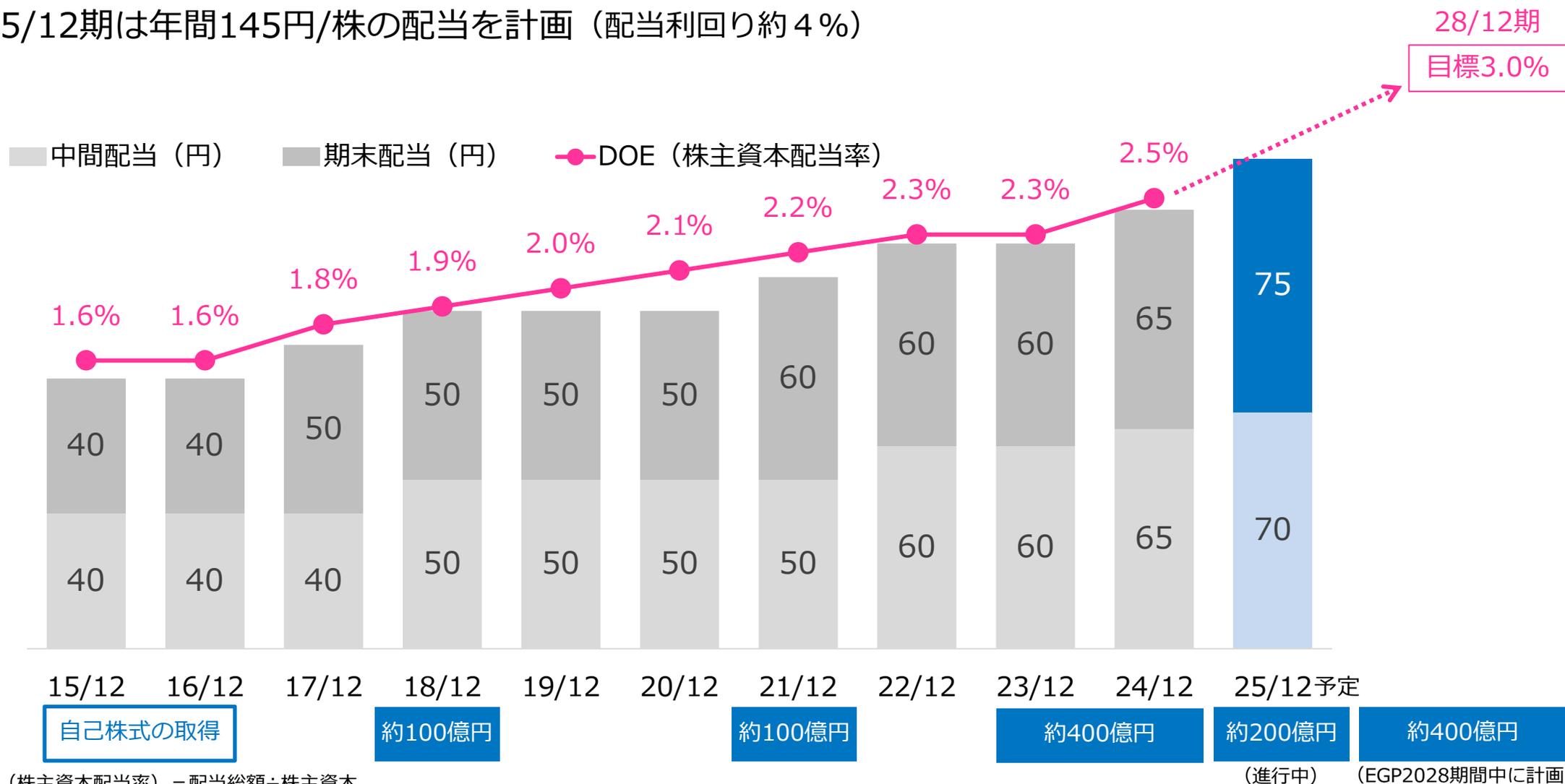
政策保有株式の縮減

- 企業価値向上の観点で保有の適否を検証
- 25/12期上期：2銘柄の株式を全数売却、1銘柄の株式を一部売却 ⇒ 縮減進む



株主還元

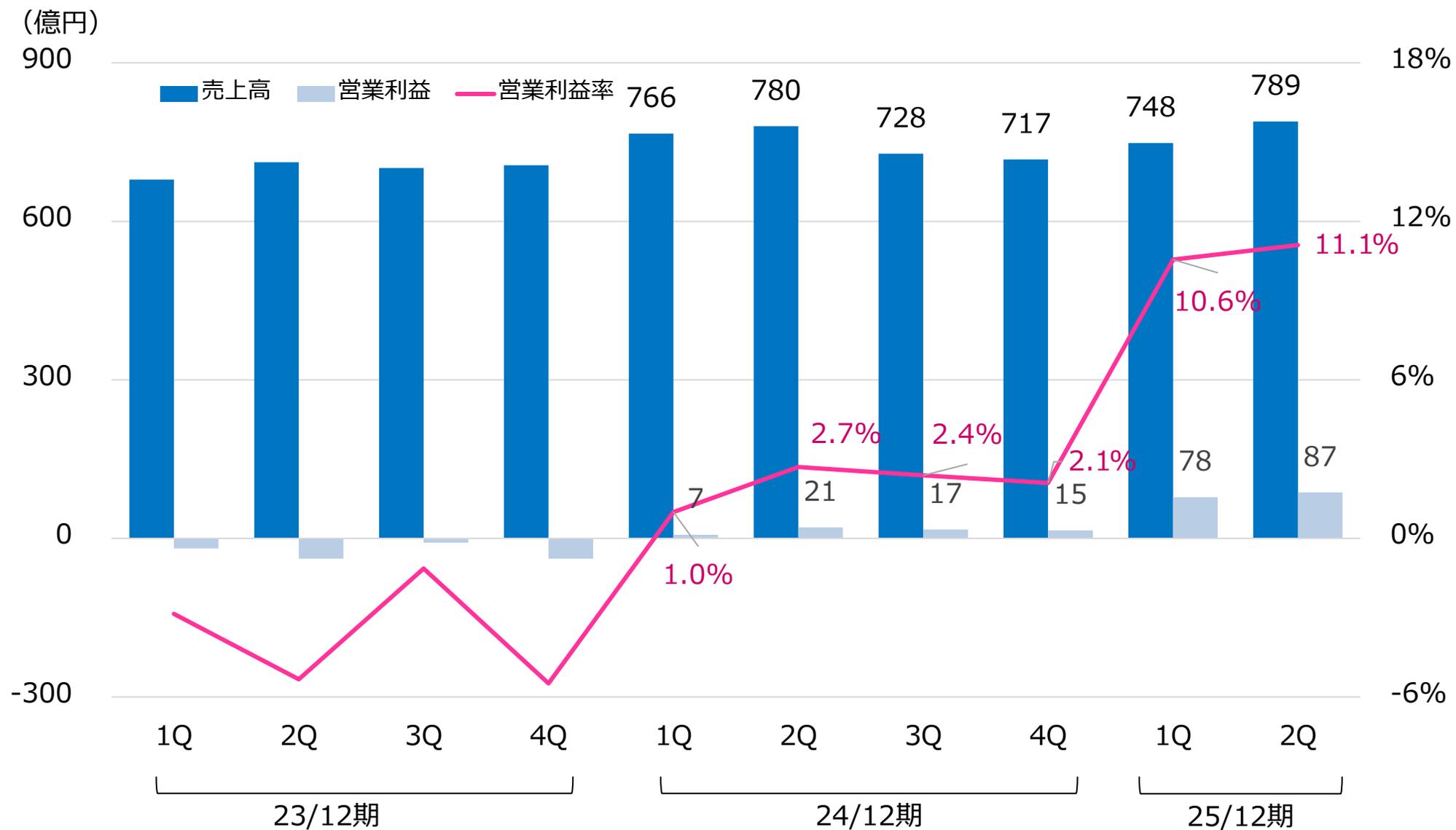
- 20年以上にわたり減配なく、配当を維持または増配中
- 25/12期は年間145円/株の配当を計画（配当利回り約4%）



※DOE (株主資本配当率) = 配当総額 ÷ 株主資本

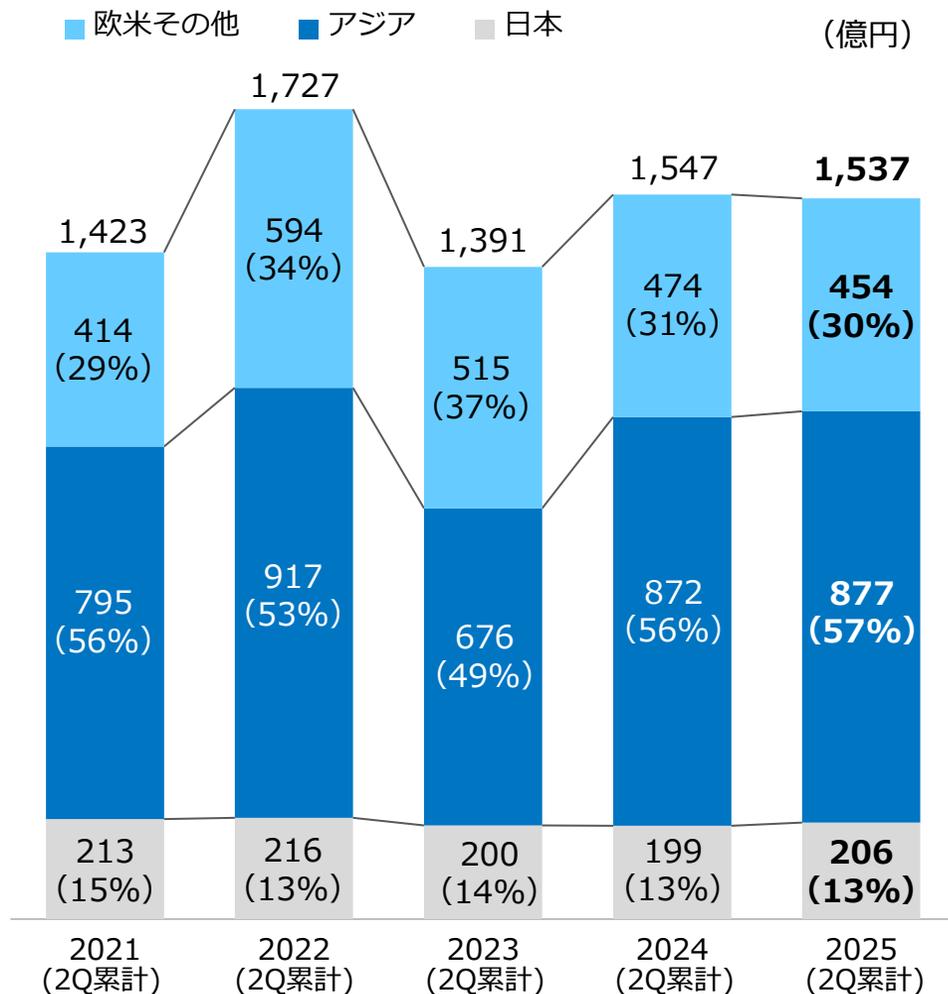
参考資料

四半期業績の推移

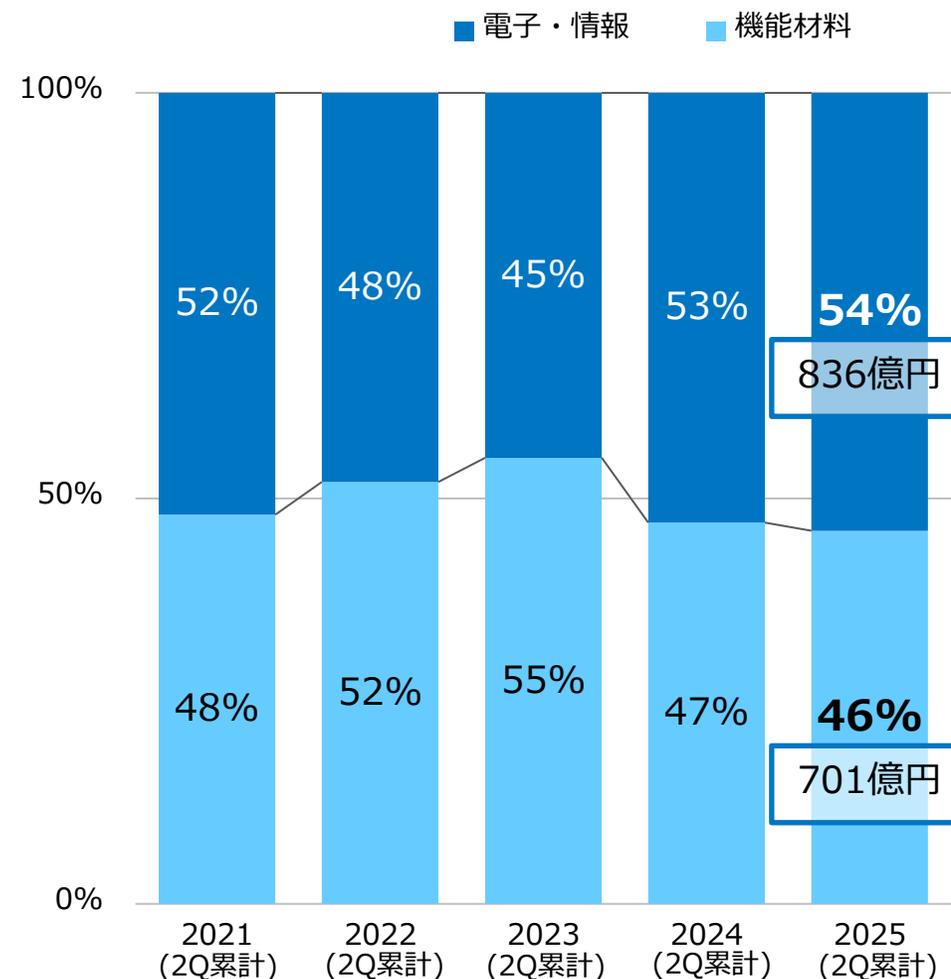


地域別・事業分野別の売上高推移

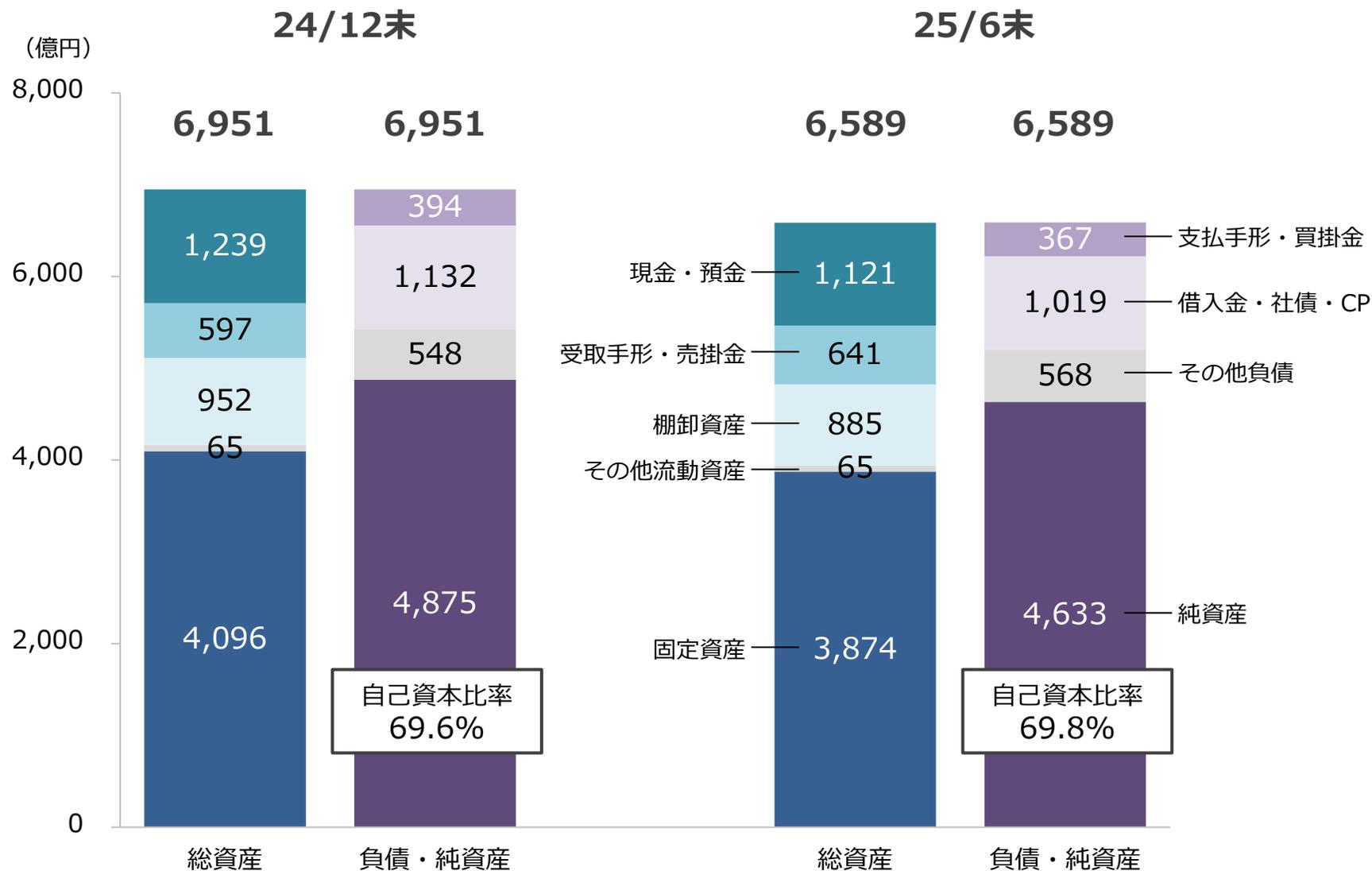
■ 地域別売上高推移



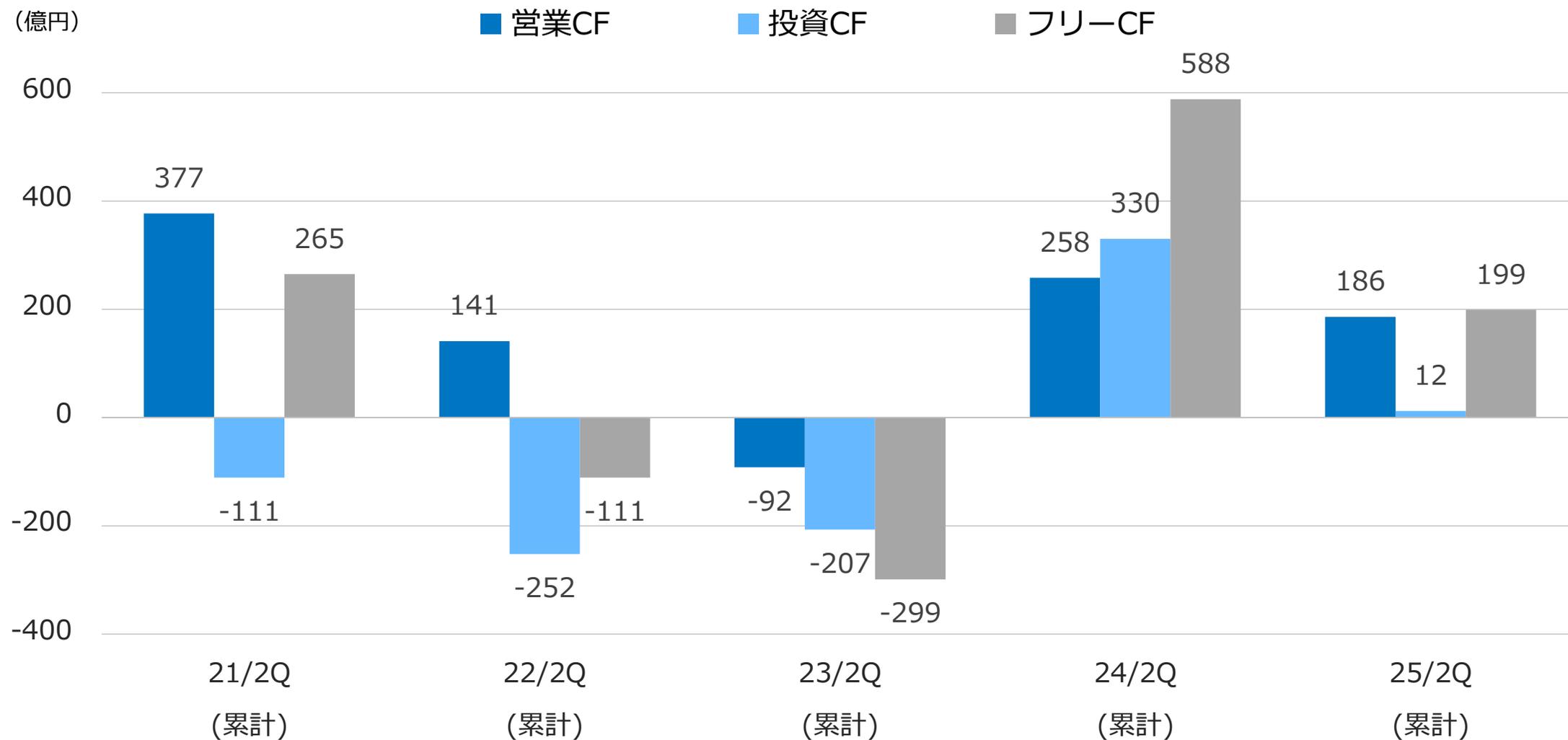
■ 事業分野別売上高推移



連結貸借対照表



キャッシュフローの推移



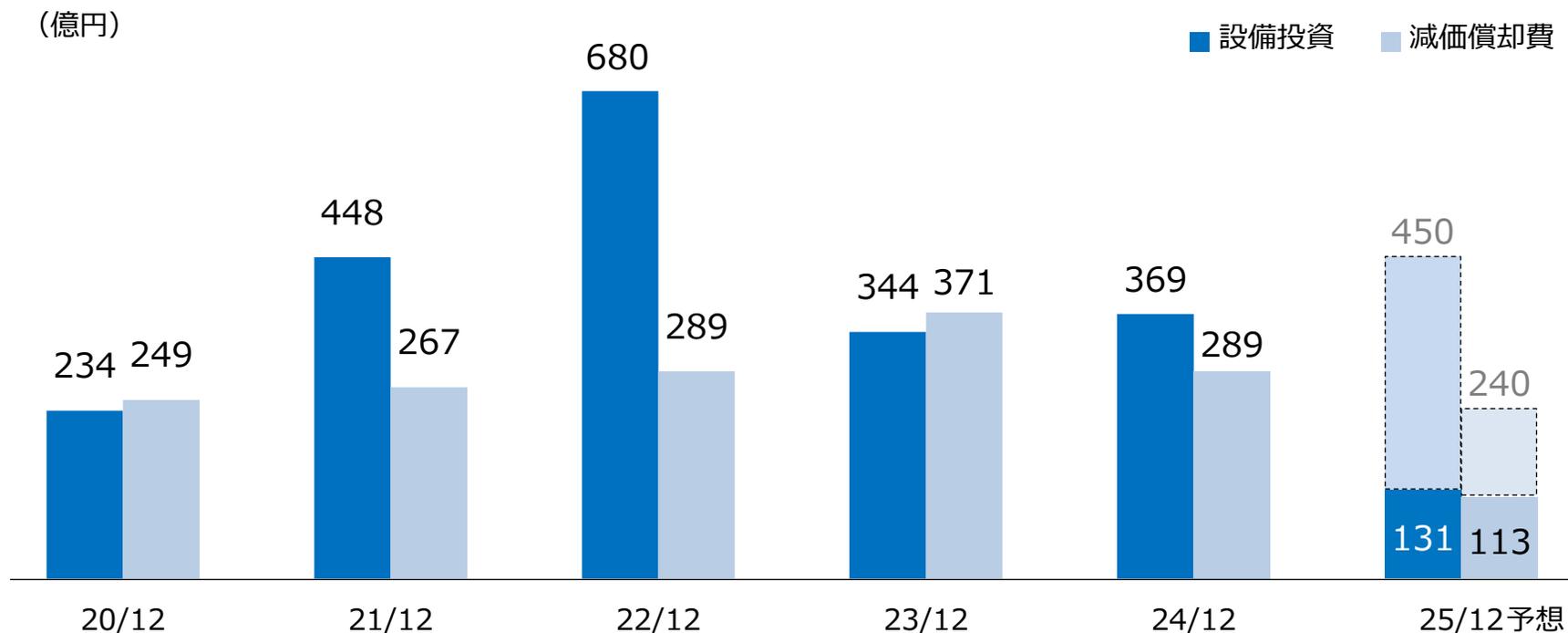
設備投資・減価償却費の見通し

設備投資

- 25年12月期：450億円程度（完工ベース）
電子デバイス…半導体用サポートガラスの能力増強、等
ディスプレイ…全電気溶融技術の展開、能力増強・生産性改善投資、等
上記のほか、プロセス開発、自動化対応、定期修繕、等

減価償却費

- 25年12月期：240億円程度



主要な事業内容

電子・情報

ディスプレイ
液晶ディスプレイ用ガラス
有機ELディスプレイ用ガラス
化学強化専用ガラス Dinorex®

電子デバイス
半導体プロセス用ガラス
LTCC製品
機能性粉末ガラス
イメージセンサ用板ガラス
小型電子部品用管ガラス
光エレクトロニクス用ガラス
蛍光体ガラス ルミファス®

機能材料

複合材
機能樹脂強化用チョップドストランド
建築材料用ウェットチョップドストランド
樹脂強化用ロービング
自動車用チョップドストランドマット
セメント強化用耐アルカリ性ガラスファイバ WizARG®

医療
医薬用管ガラス
放射線遮へい用ガラス LXプレミアム

耐熱
超耐熱結晶化ガラス ネオセラム®
調理器トッププレート用超耐熱結晶化ガラス StellaShine®

建築
防火設備用ガラス ファイアライト®
ガラスブロック
結晶化ガラス建材 ネオパリエ®

その他
照明用ガラス
ガラス製造機械

会社概要

社名 日本電気硝子株式会社
Nippon Electric Glass Co., Ltd.

本店所在地 〒520-8639
滋賀県大津市晴嵐二丁目7番1号

創立 1949年12月1日

代表者 取締役会長 松本元春
社長 岸本暁

資本金 32,155百万円

従業員数 連結 5,328名 (2025年6月末)

事業内容 特殊ガラス製品及びガラス製造機械の製造販売

事業場 大津、滋賀高月、能登川、精密ガラス加工センター

営業所 大阪、東京

連結子会社 国内 9社
海外 14社
(マレーシア、韓国、中国、台湾、欧州、米国)

予想に関する留意事項

- ◆ 本資料に記載されている業績見通しは、当社が現時点で合理的と判断する一定の前提に基づいて作成されたものであり、リスクや不確定要素を含んだものです。
- ◆ 実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。

NEG

日本電気硝子

(お問い合わせ)

日本電気硝子株式会社
総務部広報・IR担当

TEL : 077-537-1702 (広報・IR担当直通)
<https://www.neg.co.jp>